

地域おこし協力隊

が就任しました

地域おこし協力隊とは？

人口減少・高齢化の進行が著しい地域で、地域外の人材を積極的に受け入れ、地域協力を行うとともに、その地域への定住・定着を図ることで、地域力の維持、強化を図っていく制度です。

市では7月から新たに地域おこし協力隊2名が活動を始めました。下田市振興公社（数根公園）を拠点にアウトドアスポーツ振興とスポーツ振興で、地域活性化を進めていきます。

■志望動機

これまでNPO法人下田ライフセービングクラブに所属し、下田市の海水浴場を中心に活動してきました。今年で20年目になります。ライフセービングクラブでは、スポーツに関する事業を担当しており、個人的にもサーフィン、シーカヤック、登山、スノーボードといったアウトドアスポーツを海から山まで実践してきました。

前職は東京消防庁で消防士をしていましたが、下田の豊かな自然環境に魅力と可能性を感じて、本活動への参加を志望しました。

■意気込み

下田でのアウトドアスポーツというと、綺麗な海に目がいきがちですが、下田には豊かな山もあります。キャンプ、トレッキングといった山のアウトドアフィールドの魅力を発掘していけたらと思っています。

自然の中で行うアウトドアスポーツには危険が伴いますが、ライフセービングや、前職でのリスクマネジメントの経験をもとに、初心者の方からコアな経験者の方まで、安全に楽しめる環境作りをしていきたいと考えています。



やまぐち さとし
山口 智史 さん

アウトドアスポーツ振興部門

年齢 37歳 出身 東京都

■志望動機

美しい海と自然、地元の方々の人柄に魅了され20歳の頃から毎年下田市に通い詰めていました。結婚式は下田に親族を招き、河津バガテル公園で挙式。おかげで妻も下田を大好きに。いつかは家族で移住したいとずっと夢見ていました。

そこへ【地域おこし隊 スポーツ振興】募集のお話が。トライアスロンを15年ほどやっていたので、その経験を活かしつつ、下田のために何か貢献できるのではないかと即断即決で応募。夢が実現し、このような機会を与えていただいた下田の皆さまに心から感謝しております。とても幸せです。本当にありがとうございます。

■意気込み

東京都でトライアスロン専門店の店長やスポーツ自転車販売などの仕事をしていました。国内外合わせて30大会以上は出場経験があります。そうした経験を活かしつつも、トライアスロンにとらわれ過ぎずに、地元の方々にはお子さまから高齢の方まで身体を動かすことの楽しさや気持ちよさをお伝えできればと思っています。

また県外の方々には、下田のトレーニング環境の良さをSNSや動画を通じて最大限アピールし、合宿の誘致などを積極的に行って行きたいと思っています。



まきた としふみ
蒔田 俊史 さん

スポーツ振興部門

年齢 46歳 出身 埼玉県

東京2020オリンピック聖火リレー

6月25日（金）



左から下田の佐々木さん・土屋さん・鈴木さん



サーフィンホストタウンを盛り上げ



第9区間走者 石島さん（東伊豆）



思いをつないでトーチキス



サポートランナーによる東京五輪音頭



松本市長から鈴木さんへ聖火点火



手作りトーチを手に園児による模擬聖火リレー



全ランナーの思いを背負い 土屋さん



第4区間走者 浅賀さん（西伊豆）



第6区間走者 進士さん（南伊豆）



第10.11区間トーチキス 右 第10区間走者 渡邊さん（浜松）



模擬聖火リレーを終え市長からメダルの贈呈



第3区間走者 山田さん（南伊豆）



2度目の聖火リレー 鈴木さん